
ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ

No.118

July 2020

2020年度年次大会（11月14－15日） 岡山大学津島キャンパス プログラム決定！



会場の文法経講義棟（文学部・法学部・経済学部1号館）（吉田浩氏撮影）

【事務局より】

ロシア史研究会 2020 年度の大会は、11月14日（土）、15日（日）の両日に開催されます。プログラムが決定しましたので、概要をお知らせします。パネルは会員からの応募、共通論題は委員会による企画です。本年度は自由論題報告への応募はありませんでした。個々の報告の要旨については、次号に掲載予定です。

既にお知らせしたとおり、本年度の大会は、岡山大学津島キャンパスで開催予定です。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大で対面での開催が難しい場合は、期日はそのまま、会議ソフトを用いたオンライン開催に変更します。いずれの開催形態にするかについては、9月初旬に決定し、メーリングリストとホームページでお知らせいたします。

大会に関するお問い合わせは、ロシア史研究会事務局 巽 tatsumi [at] tufs.ac.jp 宛にお送りください。（[at] を@に換えてお使いください。）

2020年度 第64回ロシア史研究会大会プログラム

11月14日(土)

10:00-12:00	<p>【パネル A】「日ソ戦争：研究の新視点と新資料」 組織者：富田武（成蹊大学名誉教授） 花田智之（防衛研究所） 「日本の終戦とソ連の参戦：大国間外交の終焉」 福地スヴェトラーナ（都立大学大学院博士後期） 「日本軍捕虜抑留のソ連側動機と現実」 加藤聖文（国文学資料館） 「ソ連軍の満洲占領と地域秩序の崩壊」</p> <p>司会：河本和子</p>
12:00-13:30	昼休み
13:30-16:00	<p>【共通論題 A】「第二世界の東と西」 松村史紀（宇都宮大学） 「アジアにおける中ソ分業論（1950年代前半）」 金成浩（琉球大学） 「ハンガリー動乱とフルシチョフ外交：ソ連の政策決定過程における中国要因からの考察」 川喜田敦子（東京大学） 「冷戦下の北朝鮮復興支援：東ドイツの関与を中心に」 討論者：下斗米伸夫（神奈川大学）、松戸清裕（北海学園大学）</p> <p>司会：長縄宣博</p>
16:15-17:45	総会
18:00-	懇親会

11月15日(日)

10:00-12:00	<p>【パネル B】「シベリア出兵を見直す：人々の対応を通じて」 組織者：兎内勇津流（北海道大学） エドワルド・パールィシェフ（筑波大学） 「極東滞在期のコルチャーク提督と対露軍事干渉問題(1917年11月－1918年9月)」 松重充浩（日本大学） 「在大連日本側メディアにおけるシベリア出兵認識：『満洲日日新聞』掲載コルチャーク関係記事を事例として」 倉田有佳（極東連邦大学函館校） 「フリサンフ・ビリチを通して見た革命・内戦期のカムチャツカ」 コメンテーター：藤本和貴夫(大阪経済法科大学)</p> <p>司会：浜由樹子</p>
12:00-13:30	昼休み

13:30-16:00	<p>【共通論題 B】「ロシアとポーランド」</p> <p>梶さやか（岩手大学） 「19 世紀後半のロシア帝国西部諸県：1863－64 年蜂起の記憶をめぐって」</p> <p>青島陽子（神戸大学） 「20 世紀初頭における対ポーランド政策：教育政策に見るリベラルと保守」</p> <p>吉岡潤（津田塾大学） 「ロシア・ポーランド関係の「棘」：ポーランド・ソヴィエト戦争からカティン事件へ」</p> <p>討論者：松里公孝（東京大学）、伊東孝之（早稲田大学）</p> <p>司会：池田嘉郎</p>
-------------	--

○ 大会時の託児について

今年度は地方開催のため、「会場内託児」は実施しません。

「任意の託児所利用に対する補助」（自宅でのシッター利用等に対して、1日につきお子様1人あたり3000円を支給）は実施します。子供が在宅する状態でのテレワークは補助者がいなければ困難であることを勘案し、対面開催だけでなく、オンライン開催の場合でも助成いたします。

大会2か月前ごろに ML において告知し、その後に申請を受け付けます。ご質問がありましたら、事務局までお気軽にお寄せください。



別の角度から見た会場の講義棟（吉田浩氏撮影）

 ロシア史研ニューズレター
 第118号 2020年7月17日発行
 編集・発行 ロシア史研究会委員会
 （河本和子・畔柳千明）
 〒183-8534
 東京都府中市朝日町3-11-1
 東京外国語大学 大学院総合国際学研究院
 異研究室気付
